

教職の魅力創造プロジェクトにおける成果 ～令和2年度「小学校教員体験セミナー」を振り返って～

井家 勝己・鈴木 貴志（山形県教育庁高校教育課）

1. 「小学校教員体験セミナー」と「教職の魅力創造プロジェクト」について

山形県教育委員会では、教員選考試験における小学校教員志願者の減少を踏まえ、教職に興味のある高校生を対象にした「小学校教員体験セミナー」を令和2年度から実施しています。初年度となる今回は、本プロジェクトと連携し、地域教育文化学部の先生方と学生の皆さんから全面的なサポートをいただきました。学生の皆さんは、小学校で教育実習や学習支援ボランティア等を経験しており、その経験に基づいた対応や適切な助言は、高校生の教職に対する「気づき」や「学び」の深化につながったと感じています。また、事前オリエンテーションにおける野口徹教授の講義や森田智幸准教授のワークショップでは、教育の歴史や授業参観の視点等具体的な事例を示していただき、「教育」の本質を知る良い機会となりました。この場をお借りして、感謝申し上げます。

本プロジェクトには、対話的で協働的な学びの場として「学びのフォーラム」や「聞き書きプロジェクト」も設定されております。教職を目指す高校生が、これらを積極的に活用しながら教職の魅力ややりがいを発見し、小学校教員養成系学部・学科へ進学し、これらの取組が将来的には本県で活躍する小学校教員の育成につながることを強く希望します。

令和3年度の「小学校教員体験セミナー」は、対象校を拡充して実施したいと考えております。今後も地域教育文化学部の先生方からご指導・ご助言を賜り、事業内容の充実を図っていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。（井家勝己）

2. 「教職の魅力創造プラットフォーム会議」に参加して

教員志願者が減少の一途を辿る本県としては、今後の社会変化や技術革新に柔軟に対応出来る能力を兼ね備えた「教職を目指す若者」を増やし、質の高い教師を確保できる仕組みをつくるのが急務だと考えています。

教職の魅力ややりがいといったものをどのように伝えていくかということが課題となる中で、今回の「教職の魅力創造プロジェクト」は非常に意義のあるものと考えています。また、プラットフォーム会議の構成委員として、これから大学の学部選定も含めた進路選択を行う高校生の生の声を聞くことができるということは、これまでにない切り口からこのプロジェクトを推進できるのではないかと感じているところです。

私自身としても、教員としての使命感や達成感といった、これまで感覚的に捉えていた「教職の魅力」を改めて整理し見直すことで、生徒の人間形成に携わり、日々の成長を感じ、生徒と二人三脚で目標を達成していくことの素晴らしさを改めて実感したところです。この感覚的な部分を、いかに理論的に捉え、これから教職を目指す人々に伝えると考えたとき、貴学で現在取り組まれている本プロジェクトは大きな助けとなると感じました。

今後とも教員の魅力化を推進し、山形県の教育を支えていくため、県教育委員会としましても本会議の充実に向け、連携を図って参りたいと思います。（鈴木貴志）